

2018年度第2四半期決算説明会

(第2四半期決算補足説明資料)

2018年11月7日
株式会社キッツ
代表取締役社長 堀田 康之

【注意事項】

本資料に記載されている当社及び連結子会社の計画、戦略及び業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、さまざまな要因により、見通し等と異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。

目次

1 2018年度第2四半期決算の概要

2 2018年度経営計画

3 最近のトピックス

1 2018年度第2四半期決算の概要

2 2018年度経営計画

3 最近のトピックス

2018年度第2四半期 業績

単位(百万円)

	2017年度 2Q実績	2018年度 2Q計画	2018年度 2Q実績	対前期		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	59,592	66,000	67,781	8,189	13.7%	1,781	2.7%
内、バルブ事業	46,951	52,600	53,844	6,892	14.7%	1,244	2.4%
内、伸銅品事業	11,046	11,700	12,237	1,191	10.8%	537	4.6%
営業利益 (率)	4,314 (7.2%)	5,500 (8.3%)	5,813 (8.6%)	1,498	34.7%	313	5.7%
内、バルブ事業	5,606	6,700	7,306	1,700	30.3%	606	9.0%
内、伸銅品事業	342	330	191	▲150	▲44.1%	▲138	▲41.9%
経常利益	4,057	5,400	5,788	1,731	42.7%	388	7.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,641	3,500	3,926	1,285	48.6%	426	12.2%
ドル:対円	112.12	109.0	108.52				
ユーロ:対円	122.18	132.0	130.66				
電気銅建値:円/トン	709,000	800,000	760,000				

注) 売上高及び営業利益は、バルブ事業と伸銅品事業のみを表示しておりますが、合計はその他を含む連結合計であるため、一致していません。

バルブ事業 国内売上高(市場別)

前年同期比35億60百万円(11.6%)増の342億59百万円。建築設備向けは首都圏再開発案件向けの納入が引き続き堅調。水市場向けは自治体向けの低迷が続いた。半導体製造装置向けは第2四半期までは高水準を維持しているが、足元の受注は減速。工業用バルブについては、保守・更新需要だけでなく、化学メーカー等の能力増強投資もあり、増収。価格改定効果も寄与した。

単位(億円)

	2017年度 2Q	1Q	2Q	2018年度 2Q	対前年	
					増減額	増減率
国内 合計	307	168	175	343	36	12%
建築設備	134	73	73	146	12	9%
水関連	37	15	20	35	▲2	▲5%
半導体関連	36	23	23	45	9	25%
機械装置関連	100	18	18	36	16	16%
石油精製・石油化学		17	17	33		
一般化学		7	7	14		
食品・製紙		6	6	12		
ガス・電力		6	6	12		
大型プロジェクト物件		3	6	9		

注) 1 各市場で採用されるバルブの材質、形状の変化やトレンドを考慮し、2018年度より各市場に集計する製品群の一部を見直ししています。
そのため、2017年度の「機械装置関連」から「大型プロジェクト物件」までの各市場向けの売上高については、合計額で表示しております。

注) 2 億円単位で表示しているため、累計・合計が一致しない場合があります。

バルブ事業 海外売上高(エリア別)

前年同期比33億32百万円(20.5%)増の195億84百万円。半導体製造装置向けは好調を持続したが、国内と同じく受注は減速。中東はイラン向け大型プロジェクトBid Bolandの納入が9月に完了。米州は原油価格上昇に伴い回復傾向。パイプライン会社向けの売上も増加。中国はデータセンター向けを中心に汎用バルブが引き続き堅調であり、工業用バルブでも大型物件への出荷完了。欧州は最悪期は脱し、代理店からの在庫発注が再開されている。アセアンは拠点の設立、新規代理店の開拓を進める。

単位(億円)

	2017年度 2Q	1Q	2Q	2018年度 2Q	対前年	
					増減額	増減率
海外 合計	163	90	106	196	33	20%
アセアン・韓国他	64	33	31	64	-	-%
(内、半導体向け)	(13)	(9)	(5)	(14)	(1)	8%
中国	30	15	21	36	6	20%
(内、半導体向け)	(8)	(6)	(7)	(13)	(5)	63%
中東	7	5	18	23	16	238%
アジア計	101	53	69	122	21	20%
米州(北米、中南米)	47	28	27	55	8	17%
欧州・その他	14	9	10	19	5	35%

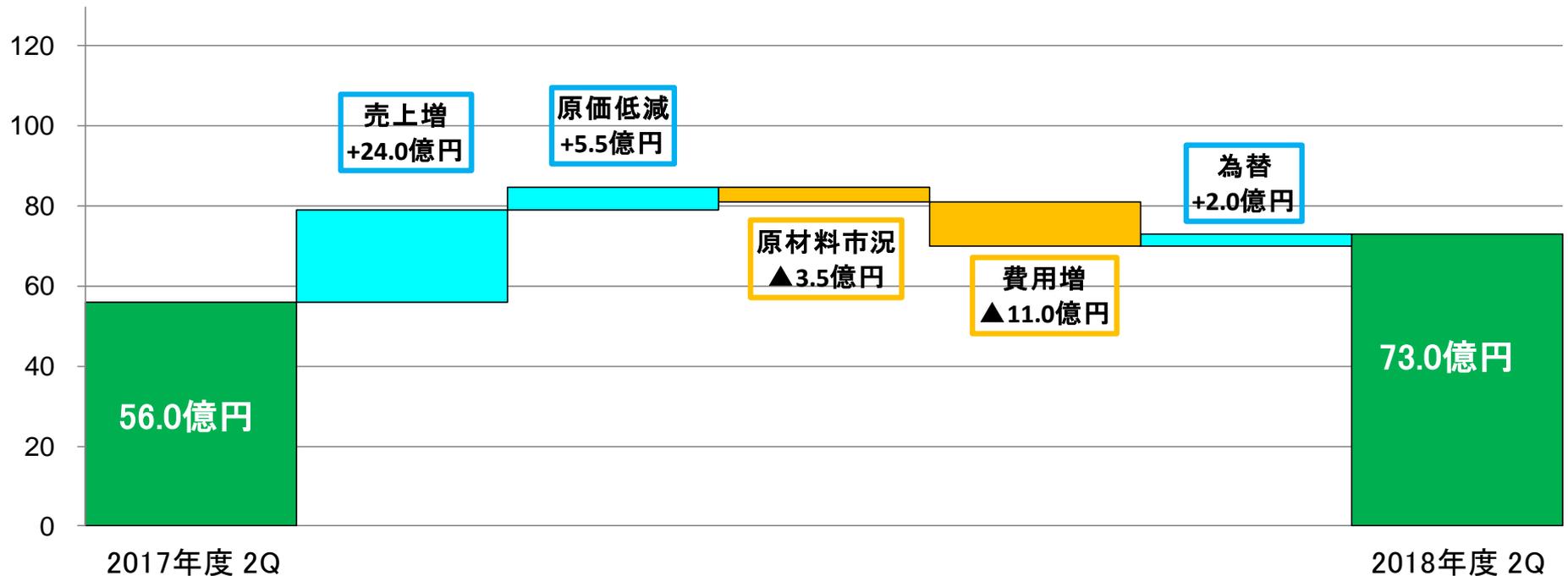
注) 億円単位で表示しているため、累計・合計が一致しない場合があります。

バルブ事業 営業利益増減要因

単位(百万円)

	2017年度 2Q実績	2018年度 2Q計画	2018年度 2Q実績	対前期		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	46,951	52,600	53,844	6,892	14.7%	1,244	2.4%
営業利益	5,606	6,700	7,306	1,700	30.3%	606	9.0%

(億円)



伸銅品事業の概要

■売上高について

売価に影響を与える原材料相場は、6月まで上昇していたが、7月から下落に転じた。売上高は、前年同期比11億91百万円(10.8%)増の122億37百万円。

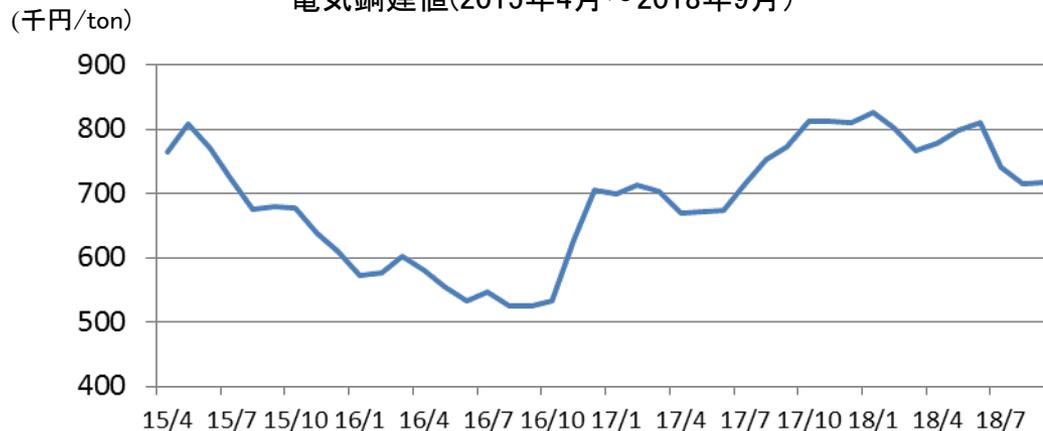
■営業利益について

期初及び7月～9月の原材料相場変動の影響を受け、営業利益は前年同期比1億50百万円(44.1%)減の1億91百万円。

単位(百万円)

	2017年度 2Q実績	2018年度 2Q計画	2018年度 2Q実績	対前期		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	11,046	11,700	12,237	1,191	10.8%	537	4.6%
営業利益	342	330	191	▲150	▲44.1%	▲138	▲41.9%
電気銅建値:円/トン	709,000	800,000	760,000				

電気銅建値(2015年4月～2018年9月)



黄銅棒とその加工品

その他の概要

■売上高について

売上高は、国内の団体宿泊客の増加等により、前年同期比1億4百万円(6.6%)増の16億98百万円。

■営業利益について

営業利益は、増収効果及びコスト削減に努めた結果、前年同期比64百万円(114.5%)増の1億20百万円。

単位(百万円)

	2017年度 2Q実績	2018年度 2Q計画	2018年度 2Q実績	対前期		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	1,594	1,700	1,698	104	6.6%	▲1	▲0.1%
営業利益	56	80	120	64	114.5%	40	50.3%



長野県諏訪市のホテル紅や

連結営業外・特別損益の状況

単位(百万円)

	2017年度 2Q実績	2018年度 2Q実績	増減額	主な増減内訳
営業利益	4,314	5,813	1,498	
■営業外収益	294	362	67	為替差益 +41
■営業外費用	552	387	▲165	為替差損 ▲134
経常利益	4,057	5,788	1,731	
■特別利益	295	3	▲291	(前期:政策保有株売却益 291)
■特別損失	97	77	▲20	
税金等調整前当期純利益	4,254	5,714	1,460	
法人税等	1,573	1,746	173	
当期純利益	2,681	3,968	1,286	
非支配株主に帰属する当期純利益	39	41	1	
親会社株主に帰属する当期純利益	2,641	3,926	1,285	

バランスシートの状況

韓国Cephas Pipelines Corp.買収により、たな卸資産、有形固定資産及びのれんが増加した一方、基幹システム投資による無形固定資産の増加及び自己株式取得等により、現金及び預金が減少。

- 流動資産:現金及び預金の減少 ▲77億85百万円 たな卸資産の増加 20億46百万円
- 固定資産:有形固定資産の増加 19億10百万円 無形固定資産の増加 30億81百万円
- 有利子負債残高は、346億71百万円、自己資本比率57.0%(18/3末 57.1%)

単位(百万円)

資産の部	2018年 3月末	2018年 9月末	増減額	負債の部	2018年 3月末	2018年 9月末	増減額
流動資産	77,400	71,618	▲5,781	流動負債	24,078	24,448	369
固定資産	56,145	61,138	4,991	固定負債	32,075	31,538	▲537
有形固定資産	36,799	38,710	1,910	負債合計	56,154	55,986	▲167
無形固定資産	8,951	12,032	3,081	純資産合計	77,391	76,770	▲621
投資等	10,394	10,395	0	負債・純資産 合計	133,545	132,756	▲788
資産合計	133,545	132,756	▲788				

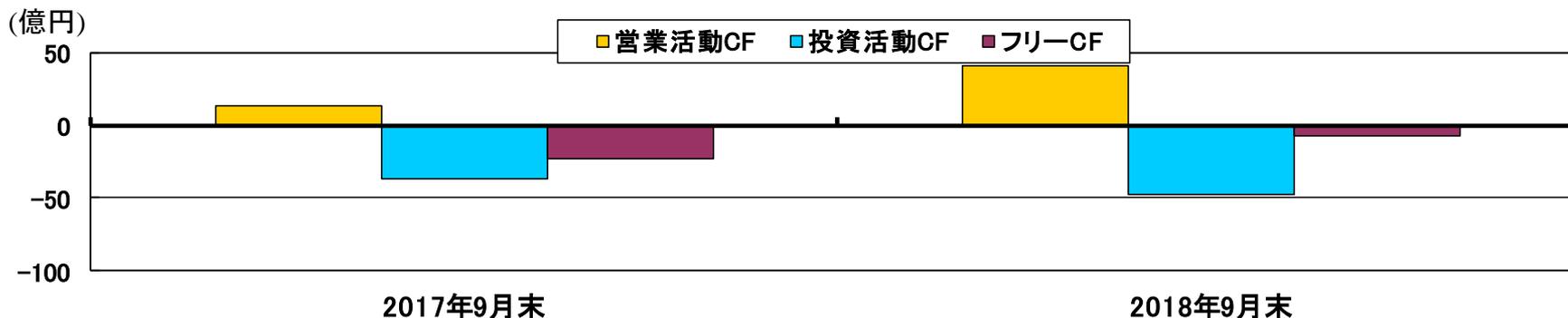
※『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を今期より適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産に、繰延税金負債は固定負債に表示しています。2018年3月末の表示についても新たな表示方法に従って組み替えています。

キャッシュ・フローの状況

- 営業活動CF: 税金等調整前四半期純利益57億14百万円、減価償却費22億16百万円。法人税等の支払額26億円や、たな卸資産の増加21億22百万円はあったが、40億67百万円の資金の増加。
- 投資活動CF: 有形固定資産の取得による支出31億96百万円、IT関連など無形固定資産の取得16億52百万円、子会社株式の取得29億85百万円等により、47億57百万円の資金の減少。
- 財務活動CF: 有利子負債の減少33億98百万円、配当金の支払9億76百万円、自己株式の取得19億50百万円等により、65億41百万円の資金の減少。

単位(百万円)

	2017年9月末	2018年9月末	増減額	増減率
営業活動CF	1,368	4,067	2,698	197.2%
投資活動CF	▲3,682	▲4,757	▲1,074	-
フリーCF	▲2,314	▲690	1,623	-
財務活動CF	▲442	▲6,541	▲6,099	-
現金等期末残高	13,976	14,613	636	4.6%



2018年度第2四半期の主な経営指標

単位(百万円)

	連結	
	2017年度 2Q実績	2018年度 2Q実績
売上高	59,592	67,781
営業利益	4,314	5,813
経常利益	4,057	5,788
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,641	3,926
海外売上高比率	28.0%	29.4%
有利子負債	25,210	34,671
自己資本比率	61.9%	57.0%
BPS	749.77円	793.25円
EPS	26.38円	40.49円

1 2018年度第2四半期決算の概要

2 2018年度経営計画

3 最近のトピックス

2018年度 下期・通期計画

単位(百万円)

	2017年度			2018年度		
	1Q~2Q (上期実績)	3Q~4Q (下期実績)	通期	① 1Q~2Q (上期実績)	②(③-①) 3Q~4Q 下期計画	③ 通期計画
売上高	59,592	64,974	124,566	67,781	64,218	132,000
営業利益 (率)	4,314	5,802	10,117 (8.1%)	5,813	5,386	11,200 (8.5%)
経常利益 (率)	4,057	5,675	9,733 (7.8%)	5,788	5,111	10,900 (8.3%)
親会社株主に帰属する 当期純利益 (率)	2,641	3,876	6,518 (5.2%)	3,926	3,173	7,100 (5.4%)
ROE	-	-	8.7%	-	-	9.1%
EPS	-	-	65.50円	-	-	73.84円
ドル:対円	112.12		112.04	108.52	111.00	110.00
ユーロ:対円	122.18		127.19	130.66	130.00	130.00
電気銅建値:円/トン	709,000		757,000	760,000	760,000	760,000

セグメント別 2018年度 下期・通期計画

KITZ

単位(百万円)

売上高	2017年度			2018年度		
	1Q~2Q (上期実績)	3Q~4Q (下期実績)	通期	① 1Q~2Q (上期実績)	②(③-①) 3Q~4Q 下期計画	③ 通期計画
バルブ事業	46,951	51,211	98,162	53,844	51,155	105,000
伸銅品事業	11,046	12,489	23,535	12,237	11,762	24,000
その他	1,594	1,273	2,867	1,698	1,301	3,000
計	59,592	64,974	124,566	67,781	64,218	132,000

営業利益	2017年度			2018年度		
	1Q~2Q (上期実績)	3Q~4Q (下期実績)	通期	① 1Q~2Q (上期実績)	②(③-①) 3Q~4Q 下期計画	③ 通期計画
バルブ事業	5,606	7,192	12,798	7,306	6,993	14,300
伸銅品事業	342	356	699	191	208	400
その他	56	▲84	▲28	120	▲70	50
調整額	▲1,690	▲1,661	▲3,351	▲1,804	▲1,745	▲3,550
計	4,314	5,802	10,117	5,813	5,386	11,200

<ご参考>

対:当初計画

+400

▲250

▲150

2018年度3Q以降の見通し・施策

バルブ事業

■国内

- 建築設備市場は、首都圏大型案件向けの納入が継続するが、価格改定後の仮需及び納期不安による先行発注の反動により、若干の減速が懸念される。
- 水市場(上下水道向け)は、公共工事が引き続き低迷。但し、水処理装置は好調。
- 半導体製造装置向けは、装置メーカーの先行発注がなくなり、減速。
- 工業用バルブ市場は、化学業界などで能力増強投資が増加しており、好調を維持。
- 重点弁種であるバタフライバルブについて、伊那工場の生産能力を増強し、一層の拡販を図る。

■海外

- 北米市場は、原油価格上昇に合わせて需要が増加し、代理店からの受注が回復しているが、力強さはない。パイプライン会社への拡販を進める。南米市場(ブラジル)も最悪期を脱し、回復。
- 欧州市場は、引き続き苦戦しているが、最悪期は脱した。主に欧州で生産していたイランの大型プロジェクトBid Boland向けは出荷・入金とも無事完了。
- アセアンは、汎用バルブの一部製品で値上げを実施。引き続き、各国の拠点整備・新規代理店開拓に注力し、現地仕様の汎用バルブ開発を進めていく。
- 中国は、データセンターなど建築設備向けの汎用バルブが引き続き好調。工業用バルブも回復傾向。
- 半導体製造装置向けは、国内と同じく受注が減速。装置メーカーの設備投資動向を注視する。

2018年度計画の主な経営指標

単位(百万円)

	連結	
	2017年度 実績	2018年度 計画
売上高	124,566	132,000
営業利益	10,117	11,200
経常利益	9,733	10,900
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,518	7,100
海外売上高比率	27.9%	29.8%
有利子負債	34,302	30,675
ROE	8.7%	9.1%
自己資本比率	57.1%	58.8%
BPS	782.98円	832.00円
EPS	65.50円	73.84円

1 2018年度第2四半期決算の概要

2 2018年度経営計画

3 最近のトピックス

自己株式の取得

2018年7月30日開催の取締役会における決議内容

取得対象株式の種類	普通株式
取得し得る株式の総数	2,000,000株(上限) (発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 2.05%)
株式の取得価額の総額	2,000百万円(上限)
取得期間	2018年8月6日から2018年12月20日まで

上記取締役会決議に基づき取得した自己株式の累計(2018年9月12日取得終了)

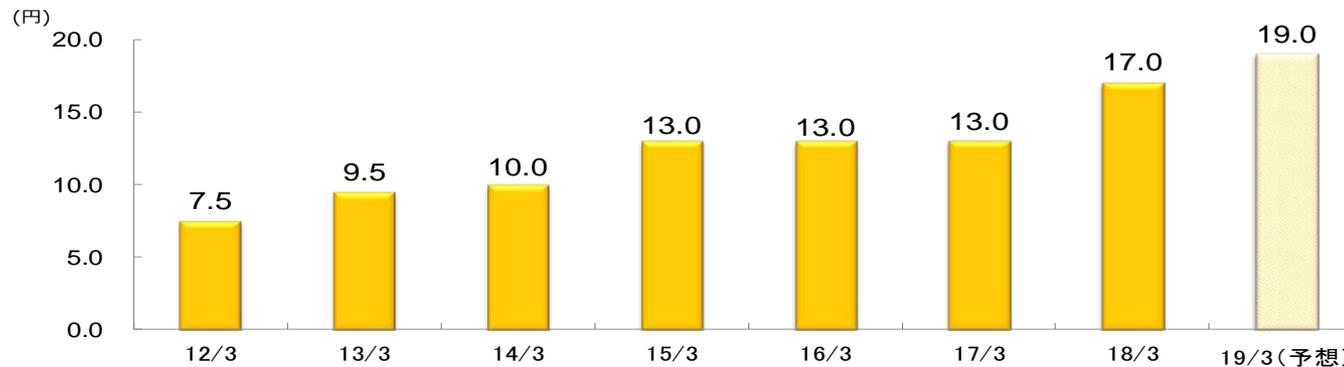
取得した株式の総数	2,000,000株
株式の取得価格の総額	1,949,259,300円

株主還元方針

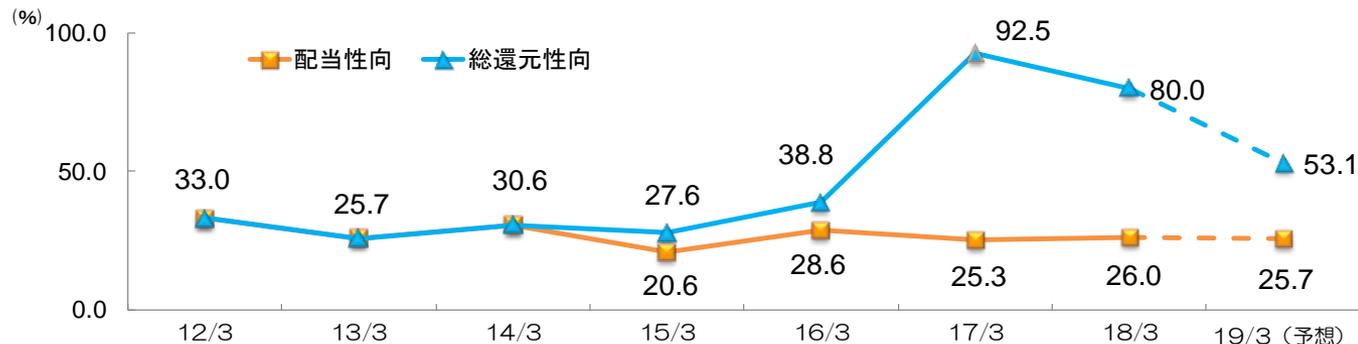
配当性向は、親会社株主に帰属する当期純利益の25%前後を望ましい水準と考えており、2018年度は、年間配当金19円を見込む。

総還元性向は、第3期中期経営計画において、従来の親会社株主に帰属する当期純利益の3分の1前後から、自己株式の取得に更に積極的に取り組み、株主還元をより一層充実させる方針。

<年間配当金推移>



<配当性向、総還元性向推移>



バイオマス発電所に 東亜バルブエンジニアリングの高圧バルブを納入

KITZ

2016年より、東亜バルブエンジニアリング株式会社(以下、TVE)と資本業務提携をしており、その成果として、キッツが受注した案件に、TVEが得意とする高圧バルブを納入した。

ヤシ殻を燃料とするバイオマス発電所向けに、キッツの鋳鋼製バルブ、ダクタイル鋳鉄製バルブ、ステンレス鋼製バルブに加え、TVE製のゲートバルブ及びグローブバルブに、グループ会社のワイケイブイ株式会社(以下、YKV)のシリンダーを搭載して納入。

今後も、両社の連携を強化し、高温・高圧バルブの受注増加を狙う。

TVE



YKV製の縦型シリンダーを搭載したTVE製ゲートバルブ

伊那工場 バタフライバルブの生産能力を増強

2018年度の国内営業本部方針として、「総合バルブメーカーの強みを拡大し、真のNo.1バルブメーカーを目指す。」を掲げている。

この方針に従い、伊那工場では、今後の市場拡大が見込まれるバタフライバルブの競争力強化を目的として、設備投資を実施。生産能力増強によるリードタイム短縮、コストダウン及び品質向上に取り組む。



バタフライバルブ製造ラインに導入した工作機械

KITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.

インドネシア駐在員事務所を開設

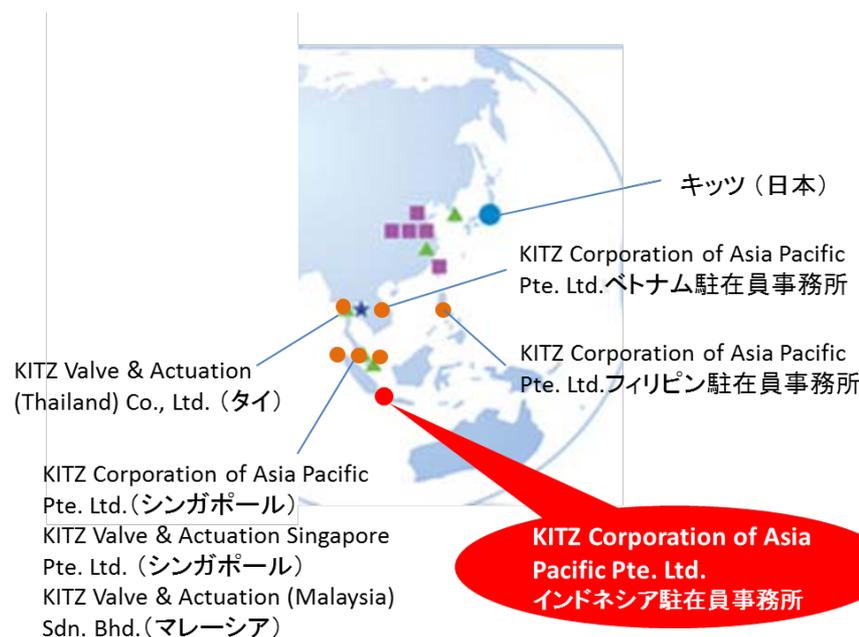
重点地域の一つであるアセアンにおいて、順次拠点を拡充しており、2018年6月、7つ目の拠点となるKITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.(以下、KAP)の駐在員事務所を首都ジャカルタ市に開設した。

【販売会社】

- ・KITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd
- ・KITZ Valve & Actuation Singapore Pte. Ltd.
- ・KITZ Valve & Actuation (Thailand). Co., Ltd.
- ・KITZ Valve & Actuation (Malaysia) Sdn. Bhd.

【駐在員事務所】

- ・KAPベトナム駐在員事務所
- ・KAPフィリピン駐在員事務所
- ・KAPインドネシア駐在員事務所



KAP インドネシア駐在員事務所

所在地	インドネシア・ジャカルタ市
設立	2018年6月
事業内容	各種バルブのマーケティング

平成30年7月豪雨被災地に 「アクアレスキュー」を設置

6月28日～7月8日、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、各地で甚大な被害が発生した。

キッツグループの株式会社清水合金製作所は、可搬式でオールインワンの高性能浄水装置「アクアレスキュー」を被災地3カ所に設置し、給水支援活動を行った。清水合金製作所の「アクアレスキュー」による被災地支援は、2016年の熊本地震に続き、2回目。今後も、緊急時の支援体制整備に取り組む。



岡山県真庭市



岡山県真庭市



長野県木曾町

広告看板のデザインをリニューアル

JR東京駅、JR海浜幕張駅及びJR上諏訪駅に設置している広告看板をリニューアル。

新デザインは、子どもがバルブをのぞき、「明るい未来」を見ているイメージを表現したもの。バルブからは、「バルブでつなぐ先は、未来。」のキャッチコピーが青空に向かって伸びており、「明るい未来・希望の象徴」としてモデルに子どもを起用。

明るい未来のために欠かせないものとして「バルブ」があり、「キッツは社会に必要不可欠な企業でありたい」というメッセージを込めている。



KITZ

ご清聴ありがとうございました。